慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	「類型」を表す字音形態素：「～風・ 式・ 系」を中心に
Sub Title	
Author	張, 倩(Cho, Sei)
Publisher	慶應義塾大学日本語・ 日本文化教育センター
Publication year	2013
Jtitle	日本語と日本語教育 No.41 (2013. 3) ,p.185- 185
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	大学院文学研究科日本語教育学分野修士論文要旨
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00189695-00000041-0185

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

慶應義塾大学　日本語・日本文化教育センター紀要
『日本語と日本語教育』41：185（2013.3）

〔大学院文学研究科修士論文〕

「類型」を表す字音形態素
―「～風・式・系」を中心に―

張　　倩

「類型」を表す字音形態素には、「流、系、風、式、派、類」などが挙げられる。いずれもある事物の「類型」を表すにあたって、他の形態素と結合して語の後接成分となる接辞的な機能を果たしている。それらは「類型」を表すという点では共通しているが、それぞれの特徴は、前接成分の意味分野や品詞性によって用法が異なると考えられる。本論文ではこれらの字音形態素のうち、「～風・式・系」を中心に、それぞれの機能について考察することを目的としている。

接辞性字音形態素に関して、これまでに多くの研究がなされてきた。中でも、山下喜代には、「字音形態素～式の機能」（1997）と「字音形態素～風について」（1998）があり、「～系」を分析対象とする論考には、小林千草に「『～系』に関する社会言語学的考察」（1999）がある。ただし、小林の論考は、語構成論の立場からというよりも、社会言語学的な立場から「～系」の運用について論じたものであり、「～系」の機能そのものを分析の目的としているわけではないが、参考になるところがある。本論文は、これらの先行研究の成果を踏まえながら、「～風・式・系」の分析を行っている。

本論文は、第 1 章で研究の目的と概観を述べ、第 2 章で「語とは何か」という問題を取り上げて、語構成論における字音形態素の先行研究を紹介している。これらはいわば研究史の検討である。

第 3 章から第 5 章では、本論文で取り上げる字音形態素のうち、それぞれ、「～風」「～式」「～系」について論じる各論となっている。ここでは、山下（1997、1998）を参考にし、「朝日新聞データベース」から抽出した例を対象として、前接語基の種類、前接語基の意味、品詞性の三つの面から分析を試みた。

結論として、字音形態素「風」は前接語 X に「様式・雰囲気・感じ」といった意味を与え、「～らしい」「～のような」といった文法的意味を与えている。「式」については、「式」が本来持っている「方法・方式」の意味を保存しており、類型や例の提示という意味があり、前接語 X には句レベルでの引用も可能であることが特徴的であることが認められた。これらの分析では、山下（1997、1998）と異なる時期の新聞資料を用いたものの、山下の研究結果が妥当なものであることが確認できた。「系」については、前接語 X には固有名詞が来ることが多く、後接語 Y の素材や生地を表わす例も多かった。

第 6 章では、「～風・式・系」に共通する機能と意味を記述し、第 7 章では、収集した資料の中で、特に「系」が新奇な用法が目立ち、「カワイイ系」や「さっぱり系」のように形容詞や副詞が来るような新しい用法も見られ、本来の「所属・系列」の意味に比べると、意味拡張のはなはだしい字音形態素であるようである。特に yahoo などのインターネットからは多くの例が収集された。また、「都会派系」のように「派」と「系」という異なる字音形態素が重ねて用いられる例もあり、「系」はかなり典型的な用法からはずれている場合があるのが特徴ではないかと考えられる。

このように、現代日本語の新聞やインターネットにみえる字音形態素の用法は、同じ「類型」を表す意味をもつものであっても、それぞれに特徴があるため、日本語教育で応用する際には、典型例と新用法を区別していくことも重要であろうと思われる。